

# 赤トンボ復活プロジェクト 休耕田を活用した田園生態系の復元

西村彩花 小堀ひなた 堀口隼靖 河上和磨 新井悠斗

指導教員 田村 統

## 1. 研究の背景と目的

アキアカネは全国的に減少しており、兵庫県版レッドデータブックでは要注目種に指定されている。たつの市でも個体数は激減している。そこで私たちは赤トンボ減少の理由を考慮し、高校生の私たちにできる活動を開始した。



## 2. 方法

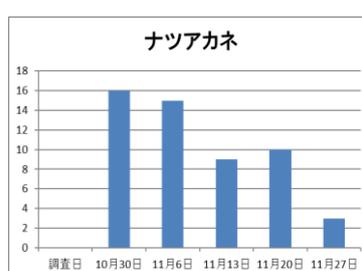
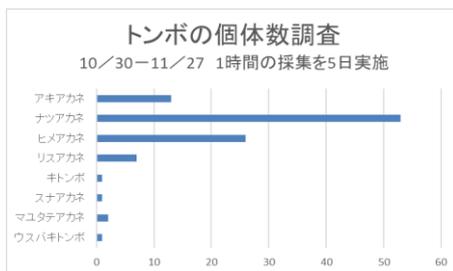
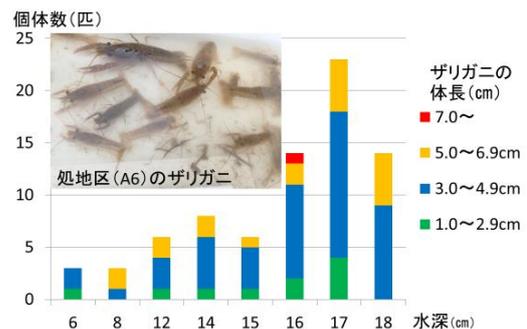
繁殖が可能な生息環境をつくるのが大切と考えた。NPO 法人たつの・赤トンボを増やそう会の協力のもと休耕田の一部を借りて16区画ビオトープをつくった。その後、生きものが繁殖に利用しているのか、またアキアカネが産卵にしているのかなど調査した。

## 3. 結果

小型のゲンゴロウやガムシ、マツモムシなど水生昆虫、イモリやカエルなど両生類は、水がたまるようになって間もなく、繁殖するようになった。アメリカザリガニも急速に増えていた。

秋に実施したトンボ調査では、調査開始当初は、ナツアカネが多く、気温が下がるにつれてアキアカネも確認できるようになった。

### アメリカザリガニの個体数と水深の関係



## 4. 考察

水深を浅くしアメリカザリガニの繁殖を抑えつつ、駆除する方法を考える必要がある。また、アキアカネの人工採卵に成功したので、この卵を使用して、本当にザリガニやイモリがヤゴの天敵なのか確認したい。また、アキアカネ飼育方法を確立し、小学生用環境教育教材の開発に取り組みたい。

## 5. 参考文献

ヤゴハンドブック, 尾園暁, 文一総合出版, 2019

## 6. キーワード

アキアカネ 生物多様性 環境保全 棚田 放棄水田